

患者のベッドサイド表示の改善

栗本千代 渡邊瀬里 堀江真実

【はじめに】

当整形外科病棟では在院日数の短縮化や術式の多様化に伴い、よりの確に素早く患者の状況を把握し、ケアにつなげる必要性が高まった。以前は患者のベッドサイドに行っても安静度や荷重状況が分からずに、援助時に不安があった。また、状況を把握するまでに時間がかかっていた(図1)。今回、より不安なく正確な援助を行えるように患者のベッドサイド表示の改善に取り組んだので報告する。

【方 法】

QCストーリーに沿って活動を展開した(図2)。

- 1) ベッドサイド表示の現状把握と表示内容・方法の変更(図3・4)
- 2) ベッドサイド表示に関する使用方法のルール化(図5)
- 3) 医師が統一した指示が出せるようにシステムの変更(図6)
- 4) スタッフの知識の差をなくし、疾患に対する理解を深めるための勉強会開催(図7)

【結 果】

ベッドサイド表示を改善したことにより、看護師・看護補助者・理学療法士など、様々な職種スタッフが一日で安静度や荷重状況を把握し情報共有出来るようになった。そのため、援助の際に不安を感じるスタッフが減少し、的確に素早く援助が出来るようになった(図8)。また、ベッドサイド表示に術式を追加することで、回診が安全かつスムーズに行えるようになった(図9)。さらに、医師・理学療法士による勉強会を開催することで、疾患に対する理解を深める事が出来た。

【考 察】

ベッドサイド表示の改善によりケアに必要な情報が表示できるようになり、情報の共有がしやすくなった。このことはケア開始までの時間短縮と、スタッフの不安軽減に有効であった(図10)。

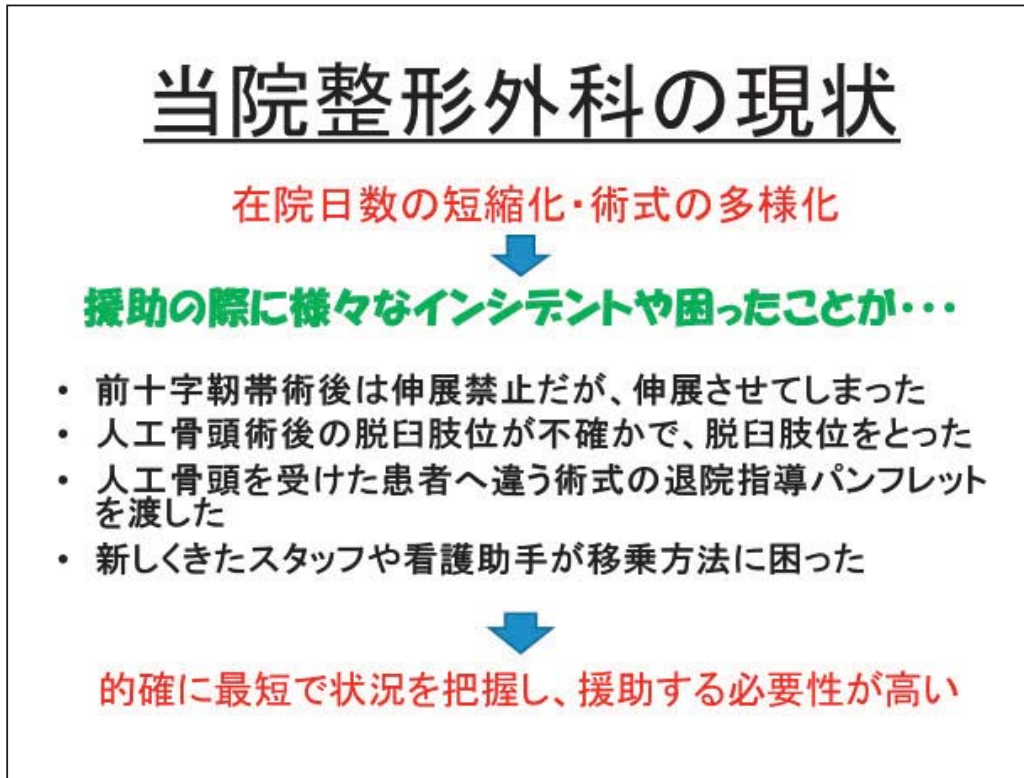


図 1

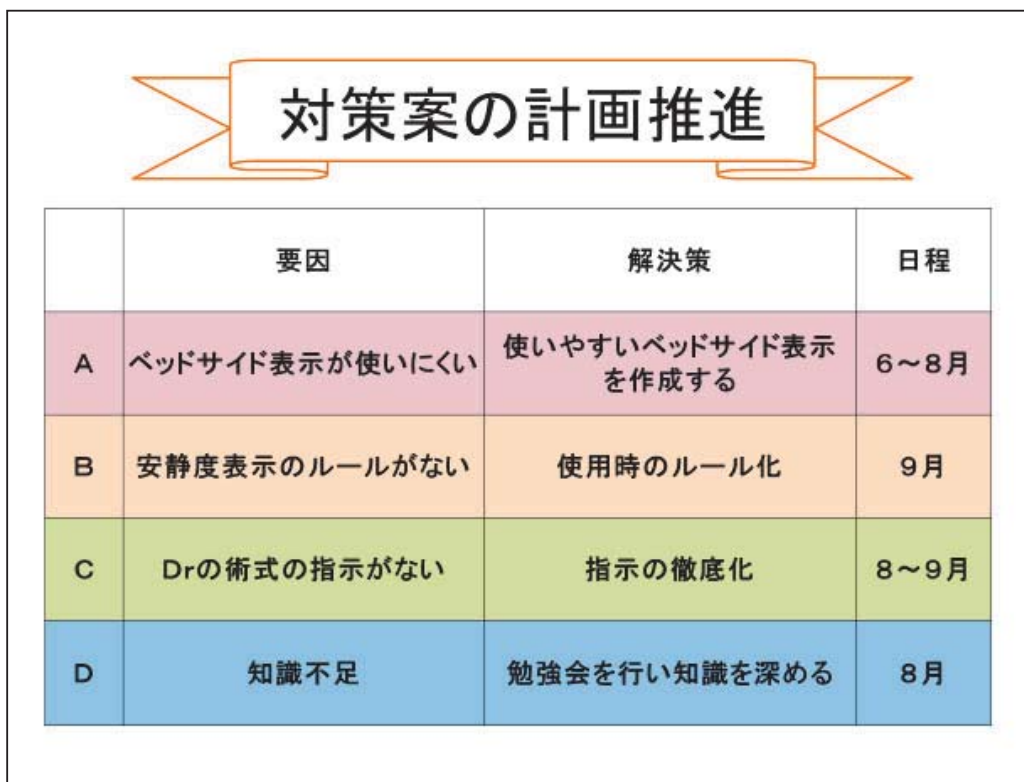


図 2

A. 使いやすいベッドサイド表示の作成

- どのような形が安定して、ベッドサイドに常に置いておけるか検討した
- 試作品を作成しスタッフへ意見を聞いた
- 感染予防のためのラミネート加工を行った
- コスト削減のため廃材を使用した
- 必要な情報を選定した

新しいベッドサイド表示を作成！



図3

新しいベッドサイド表示の作成



ベッドサイド表示専用のフックがつけられ、カードが変えやすく患者に危険を及ぼさない安全なものとなった。



スタッフの声...

- ・とても分かりやすい
- ・他チームの対応をする時も 一目で分かっている
- ・回診の時に安心

図4

B. ベッドサイド表示使用時のルール化

- マニュアルを作成
(入院時や術後は必ず更新する、朝の担当患者への挨拶の際に合っているかを確認する等)
- 定期的に変更されているか監査
- PTへ協力依頼
(車椅子や歩行器等のリハビリの進行に合わせて更新してもらう)

図5

C. 医師による術式記録や 安静度指示の徹底化

- 今までは・・・
人工骨頭の術式を手術記録や創部から情報を得ていたため不確かで困った。
- ↓
- 医師に安静度指示の入力を依頼
 - 指示簿に安静度、荷重、脱臼肢位を入力しやすいようシステムの変更
 - 術前指示に術式の入力

図6

D.知識の差をなくすため

- 医師：疾患、解剖生理、手術方法、脱臼肢位についての勉強会
- PT：安静度や脱臼に注意した援助方法の実演
- 参加出来なかったスタッフへもDVDを見てもらい、内容を把握してもらった
- 勉強会前後でテストを実施



図7

効果の確認

- ・不安と感じるスタッフ：100%→10%
- ・以前は24%しか使用できていなかった表示
→設置率、適切使用率が85%
- ・知識確認のテスト結果
→正答率82%→91%
- ・安静度に関するインシデントがなくなった
- ・指示簿で情報が把握できるようになった



図8

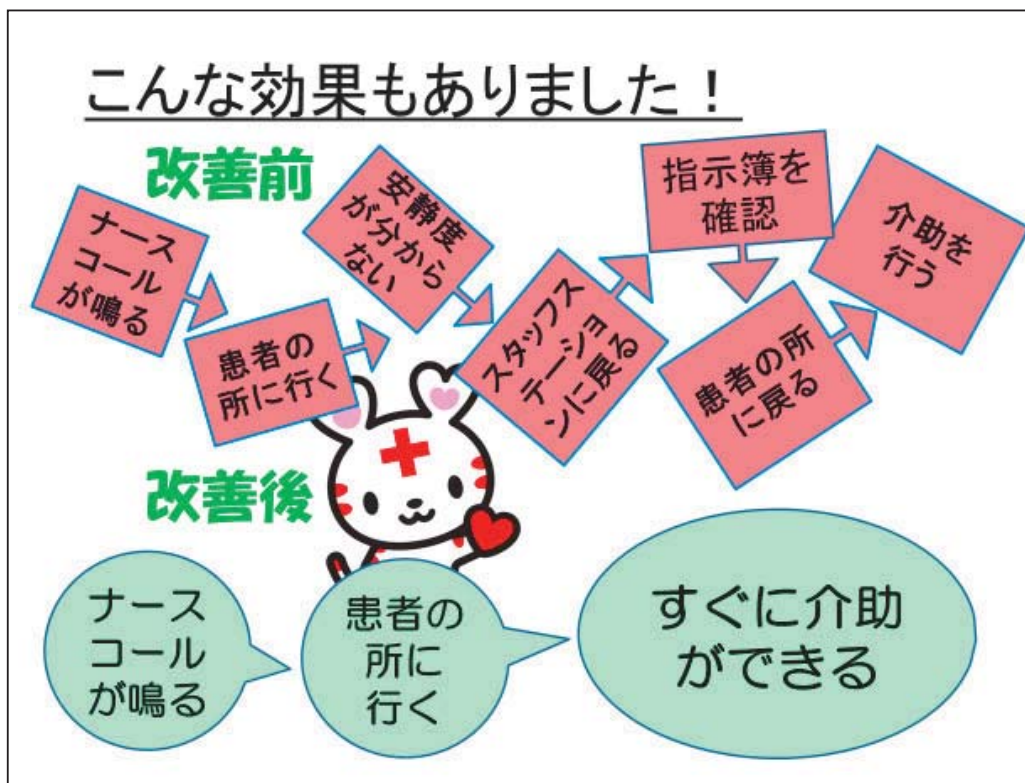



図9

まとめ 

良かった点

- ベッドサイド表示があることで安静度や荷重がすぐに分かり、不安が軽減された。
- インシデントがなくなった。
- より安全で個別性に応じた援助が出来るようになった。

今後に向けて

- カードの使用・更新が徹底できるように、使用時のルールを病棟基準の中に加え、定期的な監査を行っている。

図10